ＪＡ自己改革推進レポートについて

令和５年９月２６日
ＪＡ鳥取県中央会

１．ＪＡ自己改革実践状況

（３）ＪＡ鳥取中央の取り組み

①大栄西瓜新規就農収穫産地体験会を開催

ＪＡ鳥取中央大栄西瓜組合協議会は７月２日、北栄町で大栄西瓜新規就農収穫産地体験会を開いた。体験会は、北栄町産業振興課との連携の下、体験を通じて就農希望者の要望や問題点を把握し、担い手の確保を図ろうとするものである。

体験会には、県内外から同町でのスイカの栽培や移住を検討する１４人が参加。参加者は、スイカ生産者の吉見忠亮さんのほ場で出荷最盛期を迎えた大栄西瓜の収穫や選果場の視察、就農に向けた研修を行い、昼食会ではスイカ生産者と交流を深めた。

参加者は「楽しく収穫作業ができた。支援制度も充実しているので就農を前向きに考えたい」と話した。

②（株）京橋千疋屋が管内の特産品を視察

ＪＡ鳥取中央は８月７日、老舗高級果物店（株）京橋千疋屋（東京都中央区）の中村保取締役営業部長と川澄修パーラー部マネージャーを招き、管内の特産品である倉吉西瓜（抑制極実西瓜）と東郷梨（二十世紀、新甘泉）のほ場を視察した。同社と同ＪＡは、長年取引をしており、数年ごとに視察を行っている。

視察先は、倉吉西瓜生産部会の岸本健志部長と東郷果実部の寺地政明部長のほ場で、生育状況などを確認した。

同社は、例年のギフトを始め「猛暑で、果実や果汁を使った水分補給にニーズと関心が高まっている。安定した量を確保したい」と要望。これに対し、寺地部長は「梨団地の造成やジョイント栽培の導入で生産基盤の強化に取り組んでいく」と答えた。

③倉吉梨選果場　露地「二十世紀」輸出用選果スタート

鳥取の秋の味覚を代表する露地栽培の県産梨「二十世紀」の輸出用選果が８月１９日から始まった。

ＪＡ鳥取中央倉吉梨生産部は、同日、倉吉市の梨選果場で初出荷セレモニーを開催。生産者やＪＡ関係者などの万歳三唱の下、初荷を乗せたトラックが神戸に出発した。輸出用の梨は神戸の冷蔵施設で貯蔵され、１２月に台湾や香港など外国へ出荷される。同部はそのほかに日本で唯一、アメリカにも輸出しており、８月１９日、２０日の両日でアメリカ向けに４００箱（１箱１０㌔）を出荷した。

中村俊雄生産部長は「味は申し分なく、あざもなくきれいな梨ができた。早生梨が好調の売行きで、『二十世紀』も続いてほしい」と話した。

以上